

◇次年度の取組方針について

1 平成 30 年度校長経営戦略支援予算（区担当教育次長執行枠）に対する学校からの提案について

（1）中学校からの提案（3 項目）

① 英語教育の充実（国際理解教育）

海外へのホームステイ（学校教員及び生徒・区職員）

事前学習（スカイプでの活用など）、ホームステイの事後学習（発表）、英語デーでの活動など。

② 理数教育の向上（プログラミング教育、数学的・科学的思考力）

月 1 回、科学教室やロボット教室など実施してはどうか。

③ 防災教育

西淀川区は防災意識が高い地域であり、地域防災の担い手の中心となっていく児童生徒に対して区全体として防災意識の向上につながる取組をしてはどうか。

（2）小学校からの提案（大きく 3 つに分けられ）

① 区全体での取組（キャリア教育の実施や区全体で合唱の実施等）

② 学校に対する人的配置

③ 英検や漢検等の検定費用の補助

2 教育行政連絡会（臨時）で確認し合った内容について

- ・小学校と中学校で分けるのではなく、協働して取り組んでいくこととする。
- ・単年度ではなく、数年間継続して取り組むことを前提とする。
- ・まずは、できる限り多くの児童生徒が享受できるような取り組みが望ましい。
- ・児童生徒が興味を持ったりやる気アップにつながる取り組みが良い。
- ・英語教育においては、ホームステイは目的ではなく手段である。まずは区全体で英語教育を推進し、土台作りを進める必要がある。そのためには、全校が同じ目的を持って日々の取組を進める必要があり、それを進めているからこそ、区全体での取組も生きてくる。
- ・子ども達が主体的に夢や希望を与えることはとても良い取り組みである。あわせて、教員のモチベーションや指導力の向上に、つなげていけるようにすることも大切である。
- ・区の特色を捉えつつも、実態をとらえて進める必要がある。

（ある学校の状況

：地域の方が色々な講座を開いてくれている中で、英語のニーズが一番高い。）

3 平成 30 年度の方針について

次の 2 つの項目について、小学校中学校ともに進めていくことで了承を得た。

（1）英語教育の充実（国際理解教育）

（2）理数教育の向上（プログラミング教育、数学的・科学的思考力）

4 平成 30 年度予算要求について

平成 30 年度校長経営戦略支援予算（区担当教育次長執行枠）の方針に基づき予算要求をしているが、次長枠予算がいつまで続くか分からない状況であることなども考慮し、次長枠予算が無くなった後も、継続して事業ができるものをしたいと考えている。

① 英語教育の充実（国際理解教育の推進）

児童生徒の英語力向上と、他国の文化等を知り、自国の文化や地域の特色を理解し発信できる人材を育成するため、外国人留学生等との交流の場や英語の勉強の場を提供をする。

また、小中学校の教職員にも参加してもらうことで、子ども達が興味を持てるような魅力ある授業づくりに活かしてもらうことを考えている。

② プログラミング教育の推進 及び 理数教育の向上

学校にプログラミング教材等を提供することなどにより、プログラミング体験を通して学びを深めることができるように、児童生徒向け体験会・教職員向け勉強会などを随時実施したいと考えている。

また、体験を重視した授業づくりの推進や観察実験等の充実を図り、子ども達が理数科目に興味を持つきっかけにつながるよう、教員の指導力向上研修や理数科目の体験会についても実施していきたいと考えている。

③ 民間事業者を活用した基礎学力支援事業（西淀川個別復習塾）

塾等の事業者が公共施設等を利用して課外学習支援を実施できるようにすることで、区内の教育環境の充実を図り、生徒の学習習慣の定着、基礎学力の向上を目指す。